

## 東光まちづくり推進協議会 会議録 令和4年度 第2回

会議概要	
日時	令和4年11月22日（火曜日） 午後6時00分から午後8時10分まで
場所	東地区体育センター 1階 会議室
出席者	委員（16名、正副会長以外は50音順） 原田会長，森副会長，五十嵐（真）委員，國岡委員，幸田委員， 佐々木委員，澤田委員，高橋委員，中島委員，中村委員，中山委員， 仁田委員，本間委員，松原委員，本松委員，森山委員， （欠席 五十嵐（巨）委員，大城委員，北野委員，玉田委員） オブザーバー 菊池 地域まるごと支援員 事務局 市民生活部 林部長 地域まちづくり課 成田課長，谷口課長補佐 東部まちづくりセンター 鈴木所長，道下主査，立岩 その他 東光公民館 田丸館長
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 東光まちづくり推進プログラム
	資料2 東光地域における補助金・負担金各事業の実施状況

### 会議の結果内容

#### 1 開会

事務局から、欠席委員報告及び配付資料確認があった。

## 2 検討事項

### 東光地域のまちづくりの推進と運営について

資料1「東光まちづくり推進プログラム」を基にプログラムの改定に向けて意見交換が行われた。

始めに、東光まちづくり推進プログラムの〈4 地域の現状分析と課題解決のための取組・市への要望等〉中、各分類における「市への要望・地域からの提案」欄から削除すべきもの、継続して要望していくものを検討した。

各委員等からの発言要旨は次のとおり。

#### ■福祉，子育て，健康づくり，地域の支え合いの強化

要望・提案事項「健康維持実施時の支援」について

【委員】

- ・健康づくりは一番大事な側面。健康をメインにして色々な活動がされていくという部分があるので継続して要望していくのがよい。

要望・提案事項「子育てサロンなど，子育て関係の事業実施時の支援」について

【委員】

- ・旭川市においても少子化が進んでいる中で、これからの若い人を支援するという形で、活発に活動している地域もあるが、それほど活発ではない地域もあるので、活発な活動につながるよう継続して要望していくのがよい。

【委員】

- ・地区センターで月1回、年間で10回程子育てサロンが開かれている。そこではお母さんたちが情報交換や悩み事を語り合ったりする場面が盛んに見られる。
- ・こういう状況を見ると子育てサロンの開催は非常に意義があり、地区社協と民児協も強い意気込みで協力して取り組んでいる。継続して要望していくのがよい。

#### ■教育，文化，スポーツ振興

要望・提案事項「スポーツ公園，武道館の利用促進となるような事業の実施」について

【委員】

- ・東光スポーツ公園のパークゴルフ場はコースが難しく、面白くないという声をよく聞くことから、もう少し易しいコースになるよう整備を工夫すれば利用者も増えるのではないかと。

要望・提案事項「東光スポーツ公園内のアクセス改善」について

【事務局】

・昨年度は広い公園内を行き来する利便性の向上のため、自動車で通り抜けが可能となるように要望したが、市からは公園内の利用者の安全確保のため法令で乗り入れが禁止されており実施は困難という回答があった。

【委員】

- ・公園は幼い子供から高齢者まで幅広い層の利用があるため禁止はやむを得ない。
- ・自動車に代わる代替手段、例えば公園内で利用できる自転車等の設置を考えられないか。

■基本的な生活環境の確保、環境保全、事故・犯罪防止、防災

要望・提案事項「学習教材としてのタブレット PC、インターネット環境の整備」について

【委員】

- ・親子向けのスマホトラブル講習会の事業を実施するためにも必要な環境であるから、地域の施設への Wi-Fi 環境の整備は必要。
- ・Zoom を使って地域間交流する機会があり、Zoom を使った会議は非常に便利なのでそういう環境整備はこれからも必要。

■郷土愛や誇りの醸成・コミュニティ活性化（世代間交流）

要望・提案事項「町内会加入率を増加させる施策の実施」について

【委員】

- ・町内会の役員のなり手がおらず、町内会自体の運営がままならない所がいくつかでいたり、市民委員会を抜けた、抜きたいという町内会が存在する。
- ・転入者等への町内会加入チラシの積極的配布が必要。
- ・市は町内会の意義をもっと市民に広く知らせるべきだ。

検討の結果、昨年度決定した東光まちづくり推進プログラムに記載されている要望事項は、出された意見を踏まえたうえで、精査して市に要望していく方向で整理することとなった。

続いて、東光まちづくり推進プログラム全体に関して新たに追加すべき課題や、変更・削除すべき課題について検討を行った。

<4 地域の現状分析と課題解決のための取組・市への要望等>

■福祉、子育て、健康づくり、地域の支え合いの強化

地域の課題欄の「子どもの健全育成（全域）」について

【委員】

- ・子ども食堂の運営と合わせて、学習支援を行っているが、子ども食堂だけでは子どもの居場所としての役割を担えない。子どもたちは、居心地の良い居場所を求めており、子どもた

ちや幼児親子とかそういうことに関わりのある人たちが集える場所は残していきたい。

地域の課題欄の「地域の支え合い活動」について

【委員】

・認知症であってもなくても住みやすい地域づくりとういことで、今年度も2回オレンジカフェ in ちよだが開催された。直近の回では地域で支える方々、認知症の御家族の方々がグループワークを通して、一体感をもって認知症について語り合う様子が垣間見られ、これまで試行錯誤して回を重ねるごとに、オレンジカフェ in ちよだも育ってきている感じがしている。こうして回を重ねることで、地域の方に還元できる部分も大きいのかなという思いもあり、継続して取り組んでいきたい。

#### ■教育、文化、スポーツ振興

地域の課題欄の「東光スポーツ公園の利用促進（全域）」及び「地域交流につながるスポーツ交流の場がない（全域）」について

【委員】

- ・ウォーキングやパークゴルフ大会を開催したが、東光まちづくり推進協議会地域は広域にわたっているため、こういった取組がないと地域間の交流を図ることがなかなかできない。これらの取組は継続していくべきである。
- ・ウォーキングについては東光スポーツ公園から遠い地域から来るのが大変な場合もあるので、場所を変えて実施するというのも一つの方法かも知れない。

#### ■地産地消、商店街の振興、魅力の発信、賑わいづくり

地域の課題欄の「東光地域の特産品のPR不足」について

【委員】

- ・東光地域では野菜を作っている方が多くいる。そういった野菜や、食べ物に限らず地域の物産などを持ち寄って販売したらいいのではないか。

#### ■郷土愛や誇りの醸成・コミュニティ活性化（世代間交流）

地域の課題欄の「人口減少・少子高齢化」及び「町内会等の担い手不足」について

【委員】

- ・少子高齢化により担い手がいない厳しい現状にある。
- ・地域まちづくり推進協議会の位置付けをきちんとすべき。
- ・町内会の役職の見直しをして役員数を減らし、町内会の担い手不足に対応している例がある。

検討の結果、包括型補助金モデル事業への移行に伴う実施主体の実行委員会名の変更や上記意

見等を踏まえたうえで東光まちづくり推進プログラムを整理し、次回の協議会で決定していくこととなった。

### 3 その他

#### 1 東光地域における補助金・負担金各事業の実施状況について

事務局から、資料2に基づき東光地域における補助金・負担金各事業の実施状況をまとめた旨の報告があった。

#### 2 地域まちづくり体制の見直しについて

市民生活部長挨拶、事務局から地域まちづくり体制の見直しについて説明があり、その後、質疑等を行った。

##### 【市民生活部長挨拶の要旨】

- ・今の地域まちづくり推進協議会は、成果も一定程度出ているが、体制や支援の在り方がこのままでいいのか改めて見直そうとしている。
- ・地域まちづくり推進協議会は、地域の方々がその地域の未来図のようなものを描きながら、その中で自分たちでできるものは何かを考え、自分たちでやるから市に財政的な補助を受けたいという流れが、考え方の最初の方にあった。
- ・時間が経過するにつれ地域の課題や困りごとにはばかり目がいってしまい、自分たちの暮らしがどうなったらいいのかということが抜け落ちてきているのではないかと感じている部分もある。
- ・日頃から皆さんにどのようなことをお話しただけであればいいのか。それに対して市はどのようにバックアップすれば、皆さんの活動を活発化させることができるのか。そういうことを含めて地域まちづくり体制を抜本的に考えていきたい。

##### 【事務局】

- ・まちづくり推進協議会は地域で地域の課題を共有し、解決策を検討し、多様なまちづくりを推進することを目的に設置。
- ・今年度実施したアンケート結果などから、設置から10年以上経過し、「他の団体との情報共有」や「地域の課題解決に寄与している」といった一定程度の成果がある。
- ・一方で、活動の担い手がない、市が設置する懇談会のため「構成団体を地域で選べない、組織が複雑化、会議の増加、本来は意見をお聞きする場であり、全体で決定することができない」など課題も見える。
- ・国では、地域運営組織という地域が設置する組織によって、地域課題の解決に向けた取組を行う組織の研究が行われており、全国的に広がってきている。

- ・この様な状況下で、どのような形にすれば地域の方々にとって本当に良い、より活動しやすい体制になるのか、今後の組織の在り方を含めて検討を進めていきたい。
- ・市としては、従来どおり人的支援、財政的支援を継続する方向性を持ちながら検討していきたいと考えている。
- ・今後のまちづくり体制の在り方について、ぜひ、委員の皆さんのご意見をお寄せいただきたい。

各委員等からの発言要旨は次のとおり。

【委員】

- ・現行体制の課題の一つとして、構成団体は市が決定しているため地域で選ぶことができないこととなっている。地域主体の組織になった場合どのような団体に参加してもらえるようになるのか？

【事務局（地域まちづくり課）】

- ・今のまちづくり推進協議会は、市の懇談会組織ということで市民委員会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、学校、消防団等の団体に市がお願いして委員を出している。これら以外の団体として商工団体、老人クラブなどいろいろある。市の懇談会だところといったところに委員をお願いするには難しい部分もあるが、市の懇談会ではなく地域主体の組織になれば、組織の構成は地域で決められるようになり、自由度が高まると考えている。

【委員】

- ・町内会の担い手不足の話も出ていたが、発想を転換して、例えば中学生など子どもが中心となり、それを大人がサポートするような町内会をつくると、大人も必ず入ってくるし、子どもたちの新しい意見もそこに入ってくる。子どもたちのやりたいことを、近所の大人たちがサポートするというのがコミュニティなのかなと思う。
- ・今の子どもたちはタブレットやスマートフォンで情報収集できる環境となっている。外で遊ばなくても、みんなと一緒にできることを考えようとしたときに、例えば ICT パークを使ってデジタル的にみんなに対戦できる e スポーツをしましょうとなった。そうすると、今の高齢者の方は地域によっては e スポーツを体験していたりするので（高齢者も集まれる場所ができ、世代間交流の場にもなり得る）、IT と場所づくりだったり、一つずつするのではなく、一つのことをすると複数のことができてしまう。そんな体制が必要になってくるのではないかと感じた。

【委員】

- ・市が考えているのは、今の地域まちづくり推進協議会をなくして、地域運営組織に替えるということか？

【事務局（地域まちづくり課）】

- ・地域の自主性によって地域の自由度が高まる、そういった団体を作っただけだと

いう考えは持っているが、現状の体制が継続するということもありうると思ってる。

- ・これから各地域のまちづくり推進協議会にも行き、意見を聴きながら今後考えていく。
- ・国は、地域運営組織が望ましいと考えているが、旭川市には旭川市の地域事情もあるので、そういったものを把握した上で、委員の皆様の御意見を聴き地域の皆さんの考えがどこにあるのかを見極め、どういう方向が一番望ましいのかを検討していく。

#### 【市民生活部長】

- ・全国的に町内会への加入率が低下するなど、従来、地域活動を支えてきた町内会などの地縁団体だけでは地域の活動を支えきれなくなっている。そういう状況下で地域のいろいろな方の意見を聴く場が必要ということで、国は地域運営組織を推奨している。
- ・旭川市のまちづくり推進協議会はそういう目的で立ち上げたが、立ち上げの経緯から市の懇談会として位置付けせざるを得ず、地域運営組織という位置付けにはなっていない。
- ・本当に自分たちがやりたいことを自ら活動する。これに対して市が支援する。そういう形にどうすればできるのかということと皆さんと意見交換しながら結論を出していきたい。

予定時間となったため、他に意見がある場合は FAX 又は郵送で意見提出票を事務局に提出してもらおうこととした。

### 3 第3回の東光まちづくり推進協議会の日程について

第3回東光まちづくり推進協議会は、3月開催を予定し、日程調整後各委員に連絡することとした。

## 4 閉会